



2015年2月4日

報道関係者 各位

## フォーラム

## 「地域の課題解決は学生の課題解決能力の育成に繋がるか？ —課題解決型アプローチとソーシャルアクションアプローチ」を開催します

近年、PBL（課題解決型授業）等の授業を通して大学が地域と連携することが多くなってきており、そうした取り組みの多くが「課題解決」という形で行われています。その「課題解決」には二つの側面があります。一方は、社会人基礎力などのいわゆる「ジェネリックスキル」の中で求められる能力としての「課題解決力」という側面で、もう一方は、大学が地域の中での「地（知）の拠点」として、地域の抱えている課題を解決するという社会的責任を負っているという側面です。

しかしながら地域の課題を学生が解決することには多くの困難が伴うのも事実です。また地域の課題を解決するという授業デザインが学生の課題解決力を養うのに最適であるかどうかも検討が必要となります。

一方で、SNSなどの広がりに伴い、明示的な課題があるわけではないが「楽しさ」や「魅力」などをアピールすることで活動の輪を広げていくようなアプローチも近年では見られるようになりました。こうした「ソーシャルアクションアプローチ」とも呼べるアプローチでもって地域との連携をはかりながら、学生のジェネリックスキルを育成することもできるのではないのでしょうか。

そこで、本フォーラムでは上記に関する事例報告に基づき、「課題解決力の育成」×「地域の課題解決」という軸と、「課題解決アプローチ」×「ソーシャルアクションアプローチ」という二つの軸で大学教育と地域連携のあり方について考えます。

このテーマは、本学が目指している社会人基礎力の育成と地域連携に密接に関わるテーマであり、本学の教育および大学教育と地域連携のあり方について、「COC「地（知）の拠点」と課題解決」「ソーシャルアクションアプローチ」「大学教育と課題解決」といったテーマでパネルディスカッションを下記の内容で開催いたします。

報道各社におかれましては、ぜひ取材いただきますようお願い申し上げます。

## 記

## ■内 容：

## ●パネルディスカッション第1部「COC「地（知）の拠点」と課題解決」

市田 秀樹氏（日本文理大学 工学部 特任准教授）

「日本文理大学におけるCOCの取組みと課題解決」

服部 憲児氏（京都大学 教育学研究科 准教授）

「京都大学におけるCOCの取組みと課題解決」

## ●パネルディスカッション第2部「ソーシャルアクションアプローチ」

佐谷 恭氏（株式会社 旅と平和 代表取締役）

山戸 恵利加氏（有限会社万両 カオサン京都シアター）

「「パクチャーハウス東京」とまちを楽しむソーシャルマラソン「シャルソン」」

真田 武幸氏（NPO法人リコリタ理事長、(株)SCOP ソーシャルデザインプロデューサー）

「動機づけを生み出すソーシャルアクション事例と傾向 ～打ち水大作戦、リコリタ、ミズベリングなど～」

## ●パネルディスカッション第3部「大学教育と課題解決」

石川 雅紀氏（神戸大学経済学部教授/ NPO法人ごみじゃぱん代表理事）

「明確な課題解決モデルの提示—ごみじゃぱんの取組み」

中村 征樹氏（大阪大学 全学教育推進機構 准教授）

「大学教育と課題解決—『ドーナツを穴だけ残して食べる方法』から見る課題解決」

## ■日 時：2月15日（日）13:30～17:00

## ■場 所：京都光華女子大学 徳風館 6F 小講堂

## ■参 加 費：無料

## ■要申込（申込締切：2月14日（土））

■主 催：JSPS 科研費（挑戦的萌芽研究）26590205「ジェネリックスキル育成における汎用的学修評価プログラムの構築と実践の研究」（研究代表者：吉村充功）

協 賛：京都光華女子大学短期大学部

## ■お問い合わせ・申込先：

京都光華女子大学短期大学部 ライフデザイン学科 成瀬 尚志

[t-naruse@mail.koka.ac.jp](mailto:t-naruse@mail.koka.ac.jp)

＜取材に関するお問い合わせ＞

京都光華女子大学／短期大学部 入試広報部 担当：垣貴

[TEL]075-325-5221 [FAX] 075-312-5594 [e-mail] hkk@mail.koka.ac.jp

